

検証完了技術のフォローの状況

資料 8

下水道クイックプロジェクトで取り扱う新たな整備手法のうち、社会実験を要する整備手法については、広く普及を図る整備手法への移行に際し、図1に示す手続きを経るものとしている。

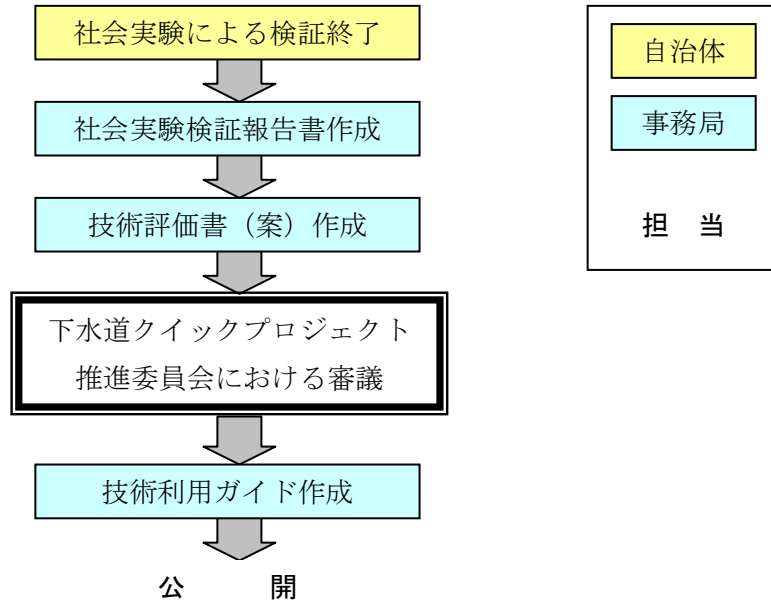


図1 手続きのフロー

平成22年3月開催の下水道クイックプロジェクト推進委員会において審議の結果、表1の3技術については、社会実験による性能等の評価を必要とする技術から広く普及を図る技術への移行が決定した。

表1 平成21年度中に「広く普及を図る技術」へ移行した技術

技術名称	検証期間	検証箇所
改良型伏越しの連続的採用	平成19～21年度	愛知県半田市 熊本県益城町
道路線形に合わせた施工	平成19～21年度	愛知県岡崎市 愛知県半田市 熊本県宇城市
発生土の管きょ基礎への利用	平成19～21年度	愛知県半田市

これを受け、各技術について「技術利用ガイド(案)」(参考資料1-2～3-2)を作成し、近日中に下水道クイックプロジェクトのホームページ(<http://www.mlit.go.jp/crd/sewerage/mifukyu/index.htm>)にて、公開する予定である。

また、平成 20 年度に広く普及を図る技術へ移行した「流動化処理土の管きょ施工への利用」も含めて、これまでの実施状況に関して調査した結果を表 2 に示す。

表 2 下水道クイックプロジェクト 一般化済技術実施状況 (H22. 4. 1 時点)

技術名称	検証期間	一般化後の実施自治体数	
		H21 年度末 現在採用	H22 年度末 現在 (予定含む)
流動化処理土の 管きょ施工への利用	平成 19～20 年度	7	8
改良型伏越しの連続的採用	平成 19～21 年度	-	1
道路線形に合わせた施工	平成 19～21 年度	-	25
発生土の管きょ基礎への利用	平成 19～21 年度	-	19
合計		7	53

今後事務局では、技術の一般化から 1 年半以上が経過した「流動化処理土の管きょ施工への利用」について、技術を採用していると回答した自治体を対象に、技術の採用理由や設計概要、並びに施工上の留意点等に関するアンケート(次頁参照)を実施する。また回答結果については、次回下水道クイックプロジェクト推進委員会において報告する予定である。

「流動化処理土の管きょ施工への利用」に関するアンケート

本アンケートは下水道クイックプロジェクトにおいて平成20年度に一般化した「流動化処理土の管きょ施工への利用」について、本技術の採用動向を把握し、本技術の普及・改善に資することを目的に、平成21年度以降に採用された地方公共団体へ配布しております。お手数ですが、黄色部分にご記入の上返信頂きますよう、よろしくお願いいたします。

【Q1】ご回答担当者について、以下にご記入下さい。

地方公共団体名		担当部署名	
お名前		電話番号	
Eメールアドレス			

【Q2】本技術を採用した路線の概要について、以下にご記入下さい。なお、本様式1枚につき1箇所のみご記入ください。複数箇所において採用実績のある場合は、お手数ですが本様式を必要分コピー頂き、記入をお願いいたします。

路線延長		m	布設管種		布設管径	
施工期間(和暦・月)		年	月～	年	月	※掘削～埋戻し完了迄
施工後交通開放までの期間		日	m当たり施工単価		千円/m	※調査・設計費を除く

【Q3】本技術の採用理由について、該当するものに○をご記入下さい(複数回答可)。

工法の優位性	<input type="checkbox"/>	従来工法に比べ、安価に施工できる。	技術利用ガイド(案)p.2に記載されていません。本ガイドは、以下のホームページから入手可能です。 http://www.mlit.go.jp/crd/sewerage/mifukyu/06.htm
	<input type="checkbox"/>	従来工法に比べ、短期間で施工できる。	
	<input type="checkbox"/>	当地方公共団体では、従来から採用実績がある。	
技術の確立	<input type="checkbox"/>	下水道クイックプロジェクトで一般化された。	
	<input type="checkbox"/>	技術利用ガイド(案)が公表された。	
施工上の制限	<input type="checkbox"/>	重機の進入が困難な狭小道路である。	
	<input type="checkbox"/>	工事用車両の出入りに関し台数制限を受ける。	
	<input type="checkbox"/>	機械転圧が困難な箇所である。	
施工箇所の特性	<input type="checkbox"/>	軟弱地盤対策が必要な地区である。	
	<input type="checkbox"/>	河川堤防等の高い遮水性が求められる箇所である	
	<input type="checkbox"/>	地震による液状化対策が必要な地区である。	
	<input type="checkbox"/>	流動化処理土製造プラントに近い地区である。	
その他(→【Q5】にお書きください。)			

【Q4】技術的な留意点について、該当するものに○をご記入下さい(複数回答可)。

材料の品質確保	<input type="checkbox"/>	流動化処理土の品質(強度、フロー値(流動性)、フリーディング率(材料分離抵抗性)、湿潤密度等)を確認した。
	<input type="checkbox"/>	薬剤として、固化剤以外に混和剤(流動化剤)を添加した。
	<input type="checkbox"/>	ポンプ圧送における圧送可能距離を検討した。
設計	<input type="checkbox"/>	近接する埋設物への影響や再掘削の可能性の有無を調査した。
	<input type="checkbox"/>	砕石路盤での交通開放に際し、排水性を検討した。
	<input type="checkbox"/>	基礎及び埋戻し土の転圧が不要になるため、標準開削工法に比べ掘削幅を縮小させた。
施工	<input type="checkbox"/>	管きょの浮上防止対策を行った。
	<input type="checkbox"/>	矢板引き抜きタイミングに留意した。
参考文献	<input type="checkbox"/>	流動化処理土利用技術マニュアル<平成19年/第2版>(土木研究所・流動化処理工法総合監理編)を参照した。
	<input type="checkbox"/>	技術利用ガイド(案)を参照した。
その他(→【Q5】にお書きください。)		

【Q5】本技術の採用理由や技術的な留意点等について、【Q3】【Q4】で回答された内容の補足説明をお願いします。(例:本市の未整備地区は、重機の使用や工事用車両の通行が困難であり、施工上の制限を受ける地区が多い。したがって平成〇年から、流動化処理土による施工を推進している。施工上は、地下水位が高い区間において、地下水の影響も考慮した品質管理を行い、浮上防止対策を講じている。)

【Q6】管渠施設平面・縦断図のご提供は可能でしょうか。該当するものに○をご記入下さい。

<input type="checkbox"/>	はい(PDF)	<input type="checkbox"/>	はい(紙)	<input type="checkbox"/>	いいえ
--------------------------	---------	--------------------------	-------	--------------------------	-----

(「いいえ」の場合、差し支えなければその理由をご記入下さい。)

質問は以上です。ご回答ありがとうございました。